

技術者の育成について

～「あますいビジョン2029」における配水管更新計画～

「あますいビジョン2029」



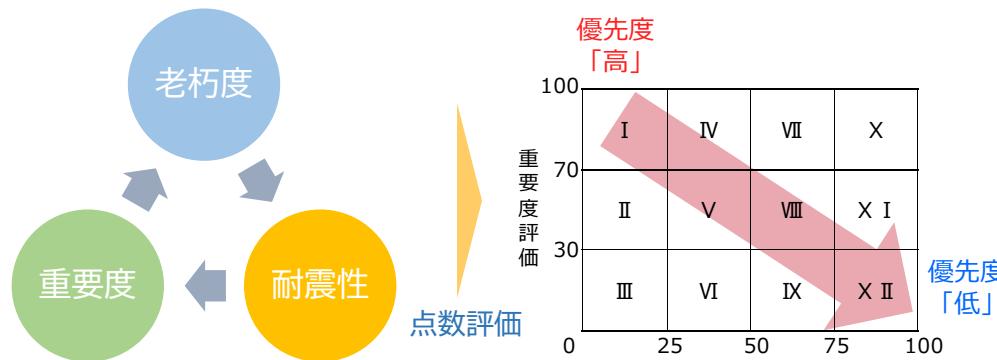
- ◆ 令和2年4月に策定
 - ◆ 人口減少や節水機器の普及に伴う水需要の減少
 - 施設の老朽化に伴う漏水事故等のリスクの高まり
 - 技術者・市職員の不足による労働力不足の深刻化
- 40年先の将来像を見据えた直近10年の計画



「配水管更新計画」（03管路の計画的更新と維持管理）

■ 更新優先度の設定

- ◆老朽度、重要度、耐震性の3つの観点から配水管の更新優先度を個別に点数評価し、12段階に分類



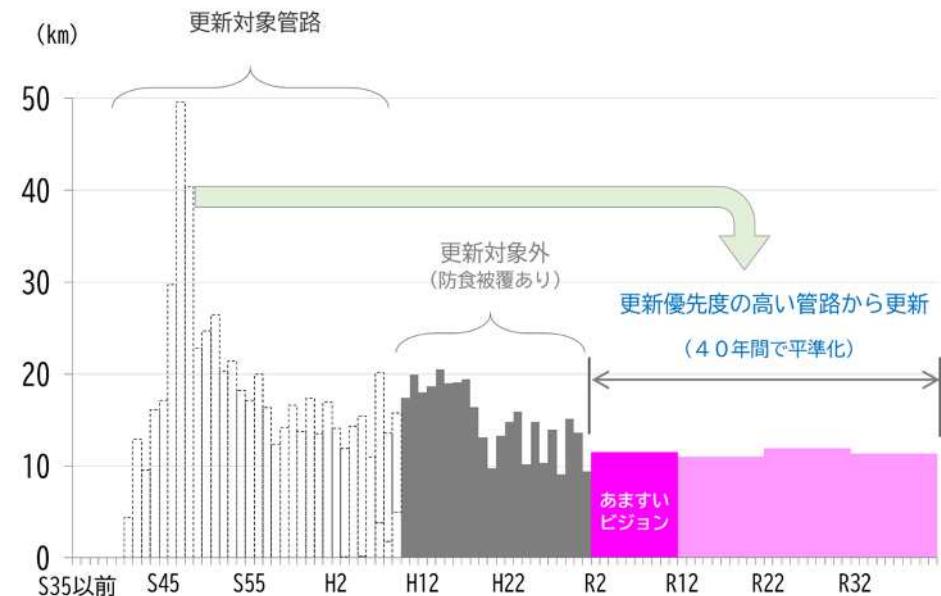
老朽度 ダクタイル鋳鉄管の老朽度調査を基に構築した腐食予測式で老朽度ランクを4段階評価

重要度 管内流量、重要給水施設への供給等から評価

耐震性 最大規模の地震(上町断層帯地震)を想定した管路被害率で評価

■ 40年先を見据えた更新

- ◆ビジョン開始年度(令和2年度)から40年間の更新優先度を算定
- ◆老朽化した管路が大幅に増加しない更新量で、かつ、**事業の平準化を考慮**



「技術者の人材育成」

- ◆ 今後も配水管更新事業は、**現在と同規模で継続予定**
- ◆ 工事を施工してくれる**事業者がいなければ、水道事業は継続できない**

➤ **事業者が事業活動を継続していくための取組**を推進していきます

書類作成事務や現場確認などの**ICT化などによる事務の軽減**

市職員だけでなく、**事業者の技術者も含めた若手の育成**



事業者においても、人材育成を推進していただくようお願いいたします